

エコシティ志木通信

2013
*
12月

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



見つめられると
弱いでし♡



志木市の豚

市之瀬さんも言うておりましたが、豚の目がとてもかわいいですね。
(青木明雄)

「ヨシ・オギ群落保全地」 保全・管理のための調査実施

「ヨシ・オギ群落保全地」は水辺再生 100 プラン（埼玉県）で整備され平成 25 年度に志木市に管理移管された「いろは親水公園」の最下流部にあり、その管理方法を探るために 5 月～10 月にかけて 7 回の観察調査をおこないました。

ヨシ・オギ群落は、かつてはよしずや茅葺屋根などの貴重な生活材として計画的に保全・管理・利用されており、低湿地を代表する文化的景観を形成し地域の生物多様性にも貢献していたことはよく知られていることです。

今回の調査では、オオブタクサ（キク科・一年草・北アメリカ原産・要注意外来生物）の猛威と、カヤネズミ（カヤ〈オギやススキなどの総称〉原に生息する世界最小クラスの野ネズミ・埼玉県レッドデータリストの準絶滅危惧種）の生息が確認できたことが大きな成果です。

保全地は乾燥化により、より湿地を好むヨシ（別名アシ・イネ科・多年草）よりも少し乾燥した湿地を好むオギ（イネ科・多年草）が多く、オギ・オオブタクサの 2 大群落がおもな占有種となっています。オオブタクサの発芽は 5 月初旬。オ

ギの芽生えより少し遅れて始まりますが、8 月には 5m 以上にもなりオギの高さを凌駕し大群落となり太陽光を独占します。そして 9 月に開花、10 月結実とオギの成長に先んじて子孫を残そうとするその戦略は見事としか言いようがありません。それに比べてオギはのんびり屋で、5 月始めにはすでに発芽していますが穂が出るのは 10 月始め頃。オオブタクサが結実・倒壊したあとになって 11 月いっぱい穂をフサフサとなびかせ、地中の茎に養分を蓄えます。

カヤネズミについては残念ながらまだよく分かっていません。10 月に真新しいものも含め 7 つの巣を見つけました。その後、大群落となったオオブタクサの種子散布を防ぐため保全地全域の草刈りをおこなったので、その後のカヤネズミの動向は確認できていません。来季はぜひ繁殖・越冬などの痕跡を確認し、その保護に活かすことができればと思います。

今回の調査は来季以降の保全・管理に有効に活かし、黄金色に輝くヨシ・オギ原の文化的景観を堪能できればと考えます。（毛利将範）



カヤネズミの巣（10/6）



オギの高さをを凌駕するオオブタクサ（10/6）



草刈り後の保全地（11/3）

■ ヨシ・オギ群落保全地の状況カレンダー（2013 年の現地調査により作成）

	4月	5月5日	6月9日	7月7日	8月20日	9月1日	10月6日	11月3日	12月
ヨシ			1.5m	3m		穂が出始める	穂		
オギ		発芽～0.5m	3m				穂が出始める 一部倒れる	芽生え（0.1m） 穂（保全地外）	
オオブタクサ		若葉	2m 2万本くらいか 600本程度抜く 一部に群落		5m以上 オギの高さを超える	5m以上 大群落形成 開花	結実 一部倒れる	地表に種	
セйкаアワダチソウ						開花	開花		
セイバンモロコシ			昭和堤に繁茂		穂が出る	土手の草刈り			
カヤネズミ			1（死骸）	2（巣）	2（巣）	4（巣）	7（巣）	1（古い巣）	
オオヨシキリ			2（さえずり）	2以上					
その他		桑の実 セイヨウカラシ ナの花 ノビル	土手の草刈り済み 湧き水（1） ツバメ ムクドリ大群	ガガイモ イシミカワ	道路公園課2名同行	ケイヌビエ クサヨシ 市へ草刈り要請 （9/3）	看板（3カ所） 10/13草刈り済み 10/20台風26号 10/26台風27号	草刈り後の裸地 （水たまり・湧き水無し）	

9/22
(日)

終了式をおこないました

川のまち志木☆水辺応援団養成講座【実践編】



富士見橋・東上線鉄橋間を調査 [写真：青木明雄]



修了証書を渡す天田代表理事 [写真：青木明雄]

川のまち志木☆水辺応援団養成講座【実践編】を6月から9月にかけて7回実施し、9月22日(日)に終了式を行いました。

この講座は、柳瀬川（志木大橋～高橋間）の外来種駆除と人材発掘を目的に実施しました。スタッフを含め述べ90名が参加、内4名に「水辺応援団修了証書」を贈呈しました。

夕方4時から6時の講座時間帯には豪雨が多発し、駆除作業が計画通り進まなかったことと区画調査の区画設定が適切でなかったことが反省点です。

成果は、参加者の中から当会への入会者が2名あったこと、また、継続観察により外来種のアレチウリやセイバンモロコシ・オオブタクサなどの生態を具体的に把握・共有することができたことです。

今回の事業で得た知見と人材を、今後の生物多様性保全に関する活動に効果的に活かすことができればと思います。
(毛利将範)

10/8
(火)

志木小屋上ビオトープを見学して

志木小の屋上ビオトープは平成15年3月の竣工で満10年と6ヵ月が経過しました。

屋上は子供たちが畑で作物を育てる学級園と志木の自然を再現したビオトープの部分に中央のウッドデッキを挟んで分かれています。最近は私たちが直接手入れをすることがなくなりましたが、学校のご努力で、通路の草を刈ってあり、5月の見学の時に比べて大変歩きやすくなっていました。また、5月に見ることができなかったメダカも、水路を掘ってあり多数観察されました。本来はビオトープの中を水が循環するように設計されていますが、時々不具合が生じて水が流れないようですが、メダカが住む環境としてはかえって良いのかもしれない。

ビオトープのウッドデッキに近い部分は、外来種のメリケンカルカヤが繁茂している他、ススキも相当勢力が強く、これらを減らすのは容易ではないと感じました。屋上という制約もあり、昆虫も少なく、それを食べるカエルなどの生き物もなくて、野鳥もあまり来ないようです。今後堆肥



置き場を活用すれば、循環を学ぶ環境教育にもなりますし、ミミズ・コガネムシなどが住み着くと思われます。

志木小学校の屋上ビオトープは宗岡や水谷田んぼなどの近くの自然をモデルに設計していて、ガマ・ススキ・タコノアシなど在来の植物がみられる貴重な場所だと思いますので、子供たちの授業でもぜひ活用してほしいと思います。子供たちがメダカや植物の観察ができ、観察日記がつけられるような場所であってほしいと思います。

(山崎光久)

9/22
(日)

志木の自然観察会（秋）

「五感で感じる柳瀬川」

柳瀬川をフィールドに、春は「春の野草観察会」で野草中心の観察会を、また夏は「トンボとチョウを見てみよう」、秋は「秋の夜に虫の声を聞こう」をテーマに、どちらも子供と大人がいっしょに楽しめる会として長年実施してきました。

今年からは大きく方向転換して、「五感で感じる柳瀬川」というテーマで、野草や虫の観察だけでなく志木の自然全体の季節変化を感じる観察会に変えました。これについては本誌6月号に「柳瀬川の春の自然を五感で感じる」で報告させていただきました。

「五感で感じる」という表現は、この現代において人間の自然観察力を呼び起こしていこうという主旨と、花・鳥・虫の名前などの知識による自然との接点だけでなく、私たちの感覚器官で自然をどのように感じられるのかという思いの両方を持たせています。さらに柳瀬川を評価する指標として、埼玉県水環境課「五感による河川環境指標・川の好感度チェック」をイベントの最後に参加者の皆様にお願ひし、このチェックは今後とも継続していきたいと思ひます。

さて、今回の観察会は台風18号の通過直後とあって柳瀬川川原を席卷していたセイバンモロコシやアレチウリはなぎ倒されて見晴らしの良い晴天に恵まれた1日でした。

実施しました自然観察について簡単に紹介しします。

秋といっても夏色がこく、紅葉はまだ先の話でしたが、トンボや虫については観察するとともに、現在アキアカネなどを見ることが少なくなった要因などの説明、雲については空を見上げながら雲の高度の違いによる形の違いの話などを聞きました。

また、観察当日、スタッフが柳瀬川の生き物を採り、これを青空水族館として小型の水槽に入れて興味深く説明を聴いたりして観察をしました。柳瀬川にこれほどの魚や、エビ、虫たちが生息していることに驚きの声が多いようでした。（なお川の生き物たちは観察後、川に戻します）



熱心に説明を聞く参加者たち

最後に「五感による河川環境指標～川の好感度チェック～」を皆様に行っていただきました。

これについて補足しますと、河川水の化学分析（EC・COD・窒素など）は、川の汚染を数値で表現できます。反面、五感によるチェックは各人の感覚で捉えるため他の地域との比較はできませんが、具体的に五感に関する設問を少し紹介しますと

- ・水の流れや澄み具合はどうですか
- ・魚はいますか・生き物はいますか
- ・ごみはありますか
- ・住民によく利用されてますか

などです。

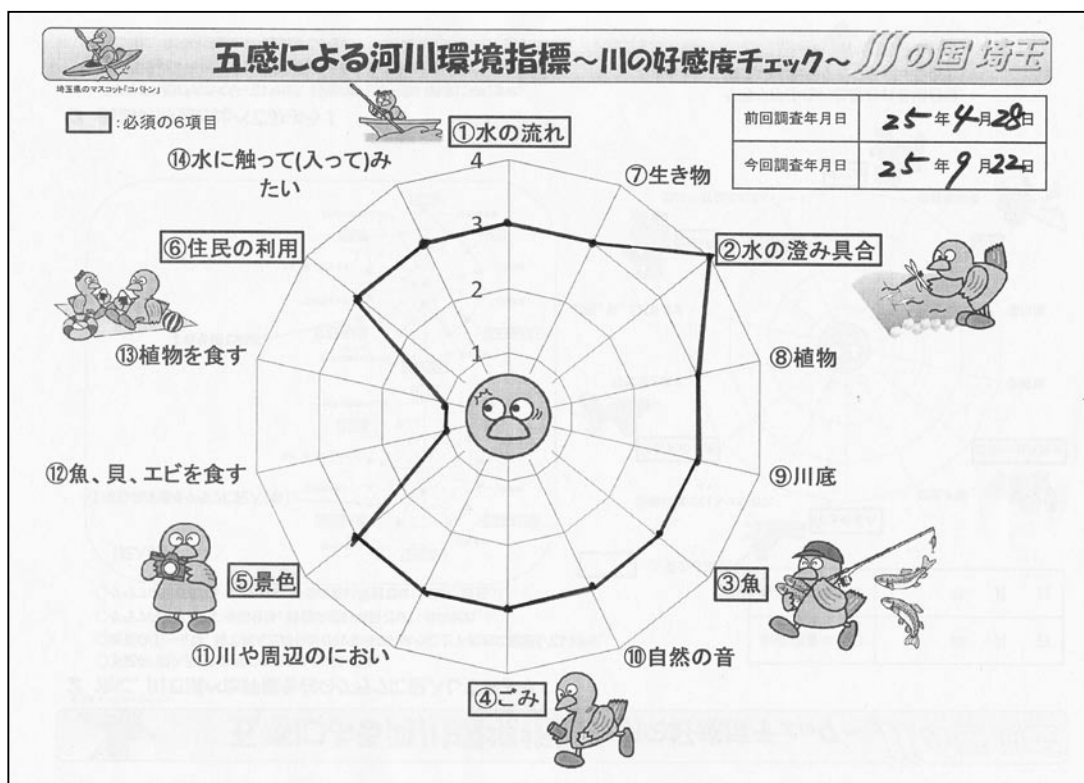
これらは化学分析とは異なりますが、人間の生活感覚に近い、また化学では得られない要素を含んでおり、また川をきれいにするための方向を示しているように思ひます。

総合的な集計結果をレーダーチャートで示しましたが「植物を食べるか?」や「魚、貝、エビを食べるか?」という設問への回答点数は最低点（食べないとの回答）でしたが、他の点数はほぼ高い得点でした。

なお、県内各地の五感による川の測定は130ヵ所で実施され、埼玉県ホームページにありますので参照して下されば幸いです。

志木の自然全体はまだまだ広い範囲で観察が可能と思ひます。今後とも観察の企画をして行きたいと思ひますので、是非ご参加ください。

（加藤健二）



11/3
(日)

こどもとおとなの自然塾

ドングリと落ち葉で遊ぼう

参加者は、柳瀬川駅前からニュータウン内の中央公園を一週しながらどんぐりを拾って柳瀬川図書館へ行きました。今年の工作はどんぐりの絵付け、落ち葉の絵付け、松ぼっくりのクリスマスツリー、それに落ち葉のフリッターでした。それぞれ絵付けしやすいよう加工してある材料を使いました。皆様の作品を写真で見てください。

どんぐりなどの材料は絵付けしやすいよう加工してあります。子供たちは、工作しやすくなった材料で自由に積極的に自然作品を楽しみました。本号では多くの人に楽しんでもらうため、これらの事前の加工について解説をいたします。

① 楊枝どんぐり

小さいので持ちやすいよう楊枝をさします。方法はどんぐりにドリルで穴を開け、そこにボンドをつけた楊枝をさします。これで持ちやすくまた乾きやすくなります。乾燥及び作品展示にはフラワーアレンジ用のフォームを使いました。絵付けには色のりが良いポスカ（商品名）を使いました。

② 台付松ぼっくり

安定するように台をつけます。台はトイレットペーパーの芯や小さい紙コップを使いボンドで接着します。この松ぼっくりに絵の具で色付けし、いろいろな色でクリスマスツリーにします。絵の



色塗りを楽しむ子どもたち（写真：毛利将範）

具は濃い目に塗ります。

③ 落ち葉の絵付けとフロッタージュ

大型の落ち葉を本などに2ヶ月くらいはさんでおきます。これで落ち葉は平たくなり色塗りなどが容易となります。

フロッタージュは落ち葉に紙を置き、上から色鉛筆などでなぞります。

なお、どんぐりなどの自然材料は、散歩の時などでこまめに集める必要があります。木の実は今から冬の時期の採取になりますが、松ぼっくりと落ち葉は一年を通じてこまめに集めることができますので、この採取も楽しみの一つにしてください。（加藤健二）

久喜市栗橋の水塚（みつか） 「田園水塚ウォーク」の下見から

NPO法人エコシティ志木理事・事務局長

青木 明雄



移築された吉田家水塚（久喜市指定文化財）

10月27日に予定していた「田園水塚ウォーク」は台風のため残念ながら中止となりましたが、訪問予定だった栗橋地区の様子についてご紹介します。

利根川と中川に挟まれた久喜市・栗橋は、昔から河川の乱流によりたびたび出水の被害に悩まされてきたところ。この地域にも水塚がまだまだ残っており、最近新しく修築されたところもありました。この地域では、字は同じですが、水塚を「みつか」と呼んでいます。

移築された吉田家^{みつか}水塚

栗橋文化会館（イリス）には、移築された吉田家の水塚があります。

説明書きに「塚の大きさは、東西21.5m、南北13.5m、高さ2mで、大谷石及び玉石の擁壁に囲まれている」と書かれています。また、「建物は、手前から『大蔵』、『向う蔵』と呼ばれている。大蔵は、木造2階建て、切妻造り、棧瓦葺で、

間口6.4m、奥行3.6m、1階の床面積31.2㎡、2階の床面積23.1㎡で江戸時代末の建築と推定される」とありました。

更に、向う蔵も「木造2階建て、切妻造り、棧瓦葺で、間口9.1m、奥行5.8m、1階の床面積52.3㎡、2階の床面積41.3㎡」とあり、かなり大きい。そして「梁にある墨書から明治37年（1904）12月に棟上げされた」とあります。この水塚は、現存する市内唯一の商家の水塚と考えられていて、平成24年（2012）3月に利根川の堤防強化対策事業に伴い、栗橋北2丁目から現在地に移築・復元したものだそうです。

この移築した場所も、台風27号が接近中の10月22日には、その前の台風26号の影響で今



北広島地区の田園風景



社殿が盛り土の上に建つ神社



木村家（北広島地区）の水塚

でも 15 cm 以上の水が溜まっているとの連絡を受け、水が出やすい地域であることが容易に想像できました。

北広島地区の水塚^{みづか}

9 月 10 日の下見で私たちは、この他に 4 軒の水塚を訪問してきました。最初に訪ねたのは北広島地区の水塚です。

この辺りには広い田んぼが広がり、稲刈りが終わった水田には沢山のチュウサギがいました。神社も水塚と同じように盛土の上に建っていました。詳しい話は伺っていませんが、洪水の時の共同の避難所としても使えそうでした。北広島地蔵の近くの木村さん宅の水塚の高さは 2 m 以上もあり、崩れてくるのでコンクリートで覆って補強してありました。近くに水塚の上の建物が朽ちて崩れているものがいくつかあります。かつては、かなりの家に水塚はあったそうですが、今では盛土だけが残っていたり、盛土も崩して平らにしてしまった家が多いそうです。

中里地区の水塚^{みづか}

かつての栗橋町役場だった久喜総合支所の環境経済課を訪ねて話を聞くと、北広島地区より更に南の、中川と権現堂川に挟まれて合流するあたりの中里地区が昔は湿地帯となっていて出水が多く、今でも水塚が多く残っているということ、そして小右衛門地区の日光街道脇の家で、水塚を修築したという情報も得て、見に行ってきました。

中里地区には沢山の水路があり中川へと流れています。この水路を背にして農家があり、水路側に水塚が並んでいました。このうちの 2 軒の農家の水塚を見せていただきましたが、東日本大震災の影響を受けたとはいえ、まだまだしっかりしていました。この水塚は北広島地区のものよりも更に高い盛土の水塚でした。母屋も明治 3 年築の大きなお宅でした。



岡田家（中里地区）の水塚



山田家（中里地区）の水塚



小森谷家（小右衛門地区）の門と水塚

小右衛門地区の水塚^{こえもん みづか}

最後に伺った小右衛門の小森谷家水塚は、旧日光街道に面したところにありました。この門は築 300 年だそうです。しっかり改修工事等の手入れをされているため、とてもきれいで、今でも門の開け閉めをしているそうです。目の前で、閉まっている門を開けてもらいました。田んぼから門のある旧日光街道に向けて、傾斜して高くなっていますが、その一番高くなった旧日光街道側の塀に沿って、大谷石と玉石の擁壁に囲まれた水塚があり、2 棟の大きな平屋の土蔵が建っていました。母屋が建っている位置でも十分田んぼより高いところにあるのですが、それでも、水塚が必要と思われる地域なのですね。この小森谷さんの水塚は、栗橋町教育委員会生涯学習課編集の「栗橋町史 民俗編Ⅱ 水と暮らし 年中行事」にも記事と写真が掲載されているそうです。

今回下見で訪問させていただいた 4 件のお宅は、突然の訪問にも関わらず、とても気持ちよく応対していただきまして、感謝しております。ありがとうございました。

更に東武伊勢崎線の鷲宮駅から 15 分ほどの久喜市郷土資料館には移築前の吉田家の水塚の写真が展示されていました。郷土資料館から鷲宮神社までは徒歩で約 20 分ほどですが、通りの電信柱には昭和 22 年（1947）のカスリーン台風の時に浸水した水の位置に青いテープが張ってあります。テープの位置は資料館から鷲宮神社に近づくに従って低くなっており、鷲宮神社は浸水しなかったようです。

このあたりにも小さな水路が多く、その水面も道路面からいくらか低くなく、橋に触れるかと思うところを流れているのには驚きました。

秋の柳瀬川での総合学習

10月と11月に、宗岡第三小学校5年生と志木小学校5年生がそれぞれ柳瀬川で総合学習を行い、当会が協力しました。

初秋に連続してやって来た台風で川の水量が増え激流が岸辺を削り、草むらも随分減りました。ゴミも大量に流れ着きました。寒くなってきたので魚が捕れるか心配でしたが、数は少ないもののエビ・ヌマチチブ・ウキゴリ・アメリカザリガニなどが元気でした。生徒さん達は寒さも忘れタモ網での魚捕り『ガサガサ』に夢中でした。

河川敷ではテントウムシやイナゴを捕まえサギやカモを観察。「セイヨウカラシナは食べられます」と若葉を口に入れて見せると、好奇心に火が点いたようで食べてみる子が続出。辛さを味わっていました。草笛を上手に鳴らす子がいれば周りがそれに習い次々に挑戦し、川の中では石を投げ水面で石を跳ねさせる『水切り』を競う姿も見られ、皆さん本当に楽しそうでした。

宗三小は計3回柳瀬川に学習に来ていて、最終回では各自がテーマを決めて臨んでくれました。



宗岡三小(10月3日)の授業のようす【写真：天田眞】

川の流れを詳しく知るため葉っぱを浮かべて行方を観察、温度計やCODを用いて水温・水質調査、柳瀬川にいる外来種の持込まれた理由について質問するなど、活発な学習となりました。

植物も虫も動物も人間も、全ては生態系の命の循環の中にあります。これからも身近な自然の中で遊び学び、全てを大切にする豊かな心を育てていただきたいです。(大田文佳)

10/18 19 20
(金) (土) (日)

いろはふれあい祭りに参加しました

会場：いろは遊学館／志木小学校／いろは遊学館図書館

第11回いろはふれあい祭り(参加団体：いろは遊学館利用者の会／志木小学校・志木小学校PTA／いろは遊学館図書館／ボランティア団体)が10月18・19・20日の3日間開催されました。

当会からは、柳瀬川の水中の生き物水族館、木の実や落ち葉を利用したオブジェづくり、志木市宗岡地区の水塚パネル展示に、今年は「志木でみつけた自然の落とし物」コーナーが加わりました。

18日午後、志木小児童対象の展示見学(授業の一環として1年生から4年生)。19日は、前日見学できなかった児童や興味ある子どもたちが再度来て、天田代表などに質問し説明を受けていました。特に今回新しく設けた「志木でみつけた自然の落とし物」コーナーには、ヘビやザリガニの抜け殻、オオスズメバチの女王蜂など、珍しいものがたくさんあるので、子どもも大人も含めて感



動していました。また20日にはドングリを使っ
ての工作コーナーができ、ドングリにアンパンマンの顔を上手に描いた女の子がいて、その子にも一つ同じものを描いてもらいそのドングリを今も大事に保存しています。

今年のお祭りは、子どもたちが特に多かったように見受けられます。来年は工作コーナーは2日間にしてもいいと思いました。(山口美智江)

- ◆ギンヤンマ(1) → 8月18日(日) 柳瀬川・志木中学校前で[大田文佳]
- ◆ヒキガエル(1) → 8月25日(日) 柳瀬川の河川敷で
- ◆チュウサギ(数羽) → 9月14日(土) 荒川。警戒心が強く近づけませんね[青木明雄]
- ◆メダカ(5) → 9月22日(日) 柳瀬川・志木中学校前で。外来種カダヤシも1匹捕獲
- ◆モクズガニ(2) → 9月22日(日) 柳瀬川・志木中学校前で
- ◆アオダイショウ(幼蛇2) → 9月22日(日) 夕方、富士見橋上流の柳瀬川右岸
- ◆ゴイサギ(若1) → 9月23日(月) 柳瀬川・ビバホーム向かい[毛利将範]
- ◆コガモ(3) → 9月23日(月) 柳瀬川・栄橋上流[毛利将範]
- ◆オオブタクサ(結実) → 9月29日(日) 赤橋下流「ヨシ・オギ群落保全地」[毛利将範]
- ◆オギ(穂) → 9月29日(日) 新河岸川左岸「ヨシ・オギ群落保全地」で[毛利将範]
- ◆アキアカネ(多数) → 9月29日(日)「ヨシ・オギ群落保全地」で。他に、ノシメトンボ・シオカラトンボも[毛利将範]
- ◆カヤネズミ(巣7) → 10月6日(日) 新河岸川左岸「ヨシ・オギ群落保全地」で
- ◆コオニヤンマ(ヤゴ1) → 10月14日(月) 柳瀬川・志木中学校前で。志木の杜マシオンでのイベント用に魚を採取時に



ギンヤンマ (8/18) [大田]



アキアカネ (9/29) [毛利]



チュウサギ (9/14) [青木]



ヒキガエル (8/25) [青木]



カヤネズミの巣 (10/6) [毛利]

環境 ひとくちメモ (30) 伊藤 智明

「川ガール」

山ガール、狩りガール、林業女子など、女性のアウトドアが近頃ブームですが、埼玉県庁の「川の国埼玉 かわガール」や川のファンを増やす活動の「東京川ガール」など、水辺にもブームがきているようです。

もっとたくさんの方に、身近な水辺を知ってもらいたいので、こうしたブームは一過性のものではなく、長く続いてほしいと想いますし、そうなるようにしていきたいですね。

【川の国埼玉 かわガール宣言】

私たち「川の国埼玉 かわガール」は、埼玉県が目指す「川の国埼玉」の実現に向けた



取組に賛同し、オシャレでスマートに、以下の活動を行うことをここに宣言します。

- 一 私たちは埼玉の川の魅力を自ら発見・体験し、県内の隅々まで発信していきます!
- 一 私たちは埼玉の川を愛し、川を守るため、川沿いをウォーキングしながら、川の美化活動を行います!

参考：埼玉県 水辺再生課「川の国埼玉 かわガール」<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/kawagirl/>
東京川ガール Facebook <https://www.facebook.com/tokyorivergirls>

☆会員状況

2013 年度更新済み (11/21 現在)

個人正会員 49 (新入会 2)

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

埼玉県生態系保護協会志木支部

志木のまち案内人の会

志木市放課後子ども教室りんくす

グループぽんぽこ

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

◆トピックス

放課後子ども教室『りんくす』(志木)

「りんくす」は小学生を対象に志木市が実施している事業で、志木・宗岡それぞれで、市民スタッフにより運営されています。当会では志木四小を拠点とする志木りんくすに協力し、年1回の柳瀬川での魚捕りを行ってきましたが、今年度から、月に1回程度の野外活動にも協力し、柳瀬川や西原第三公園等への散歩・ヨモギ摘み・ウメの実採りなどを楽しんでいます。



りんくす ヨモギ摘み

高島第六小学校の魚捕り体験(10月12日)

板橋区立高島第六小学校と大東文化大学環境創造学科が連携している「いきいき寺子屋」の企画で、柳瀬川の志木中前で魚捕り体験を行いました。2～4年生8名と保護者の方が参加、大東文化大の山口由二教授と学生も参加しました。



高島第六小 柳瀬川魚捕り

志木の杜水族館(10月14日、11月23日)

柏町の旧ワイス工場跡地に建設された大型マンション「志木の杜テラス」のエントランス前で「志木の杜水族館」を開催しました。マンション販売のプロモーションを担当している会社から、柳瀬川の魅力をアピールする企画として持ちかけられ、当会としても市民に柳瀬川の自然に関心を持ってもらえる機会として引き受けました。

(天田 眞)

「チョウ」と「ガ」はどう違うのでしょうか。よく言われているのが、チョウは昼活動し、ガは夜活動する。チョウの触覚は棍棒状（先が膨らんでいる）、ガの触覚はくし型または先端がとがっている。チョウは翅を閉じて止まり、ガは翅を開いて止まる。チョウの胴体は細く、ガは太い。等々いろいろな説がありますが、どれも例外があり、専門的にはチョウとガは区別されていません。分類上は全てがチョウ目（ガ目又は鱗翅目と呼ぶこともある）に分類され、その膨大な種のうちのごく一部がチョウで、ガはチョウの20～30倍の種がいるそうです。ガは一見地味な感じですが、種が多いだけあってか、面白いものも結構います。

前号でスズメガ科を数種取り上げましたが、身近で最も良く見かけるスズメガはオオスカシバ。ホシホウジャクとともに、昼間に花の蜜をホバリングしながら吸っているの、目にする

機会が多いです。翅が透明なのが特徴ですが、羽化直後には鱗粉が付いていて、初めての羽ばたきと共に落ちてしまいます。幼虫はクチナシの葉しか食べません。

身近で見られる最も大きなガはオオミズアオ。青緑色を帯びた白い翅は大変美しく、親指ほどの太さで、とげや毛が生えている幼虫はきれいな黄緑色です。

ヤガ科には前号に載せたアケビコノハのように下翅に鮮やかな色模様をもったものが何種かいます。ムクゲコノハはオレンジ色と水色、キシタバは黄色の模様を下翅に隠しています。フクラスズメの下翅には水色の模様があり、派手な模様の幼虫は刺激を与えると体をぶるぶると震えさせます。

同じヤガ科で幼虫がキク科植物を食べるキクキンウワバの成虫の前翅はまるで金箔を貼ったように黄金色に輝いています。



羽化直後のオオスカシバ



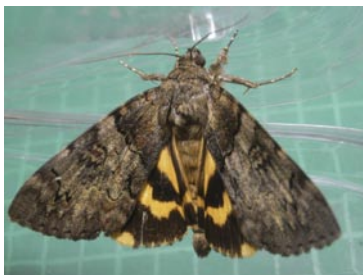
オオスカシバの幼虫



オオミズアオの成虫



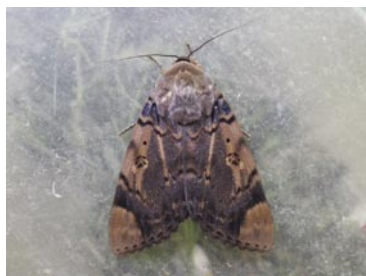
オオミズアオの幼虫



キシタバ



ムクゲコノハ



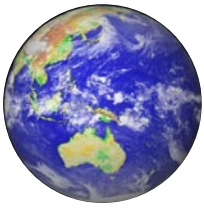
フクラスズメの成虫



フクラスズメの幼虫



キクキンウワバ



水は無尽蔵に使えるか？

加藤 健二



前は水の地球循環を題材にしました。

豊富な海水は大気中に水蒸気になり、大気により移動し、陸上で水に戻り雨として降り注ぎ地球全体に大きな水循環が形成されます。今回はこの無限に循環するように見える水ですが、どのくらいを人類が使えるのか、また人口増加による水需要がどこまで許されるのかなどを考察していきたいと思います。

水の大半は海にあり、これは水全体の97%になります。次に多いのは氷河や極地の水で2.4%です。さらに地下水が続きます。残念ながら人間が利用できる水は淡水なので全体の0.01%しかありません。海水は塩水ですから利用できません。ごく一部に工業的に淡水化する水がありますが、この水は全体から見ればごく微量な量ですし、もし大量に使用するには淡水化と送水に莫大なコストを覚悟せねばなりません。

ともかく人間が利用できる水は地球全体の0.01%でしかなく、地球温暖化による氷河の後退から、利用可能な水はむしろ減少していると言えます。逆に水需要の悪い例では、綿花栽培用などの灌漑用水に使われた世界4位の湖、アラル海がほとんど枯渇し生物は死滅してしまったのが有名です。また多くの地域で水の争奪を原因とした水戦争や紛争が起きてしまっています。

さて、水の使用用途については、生活用水10%、工業用水21%、農業用水69%の割合と言われています。海の水は一見無尽蔵に見えますが、どの

用途においても使える水は淡水ですから、循環するとはいえ水の供給量は限られていると理解できます。淡水は地表でなく地下水もありますが、この利用はかつて日本全国で地盤沈下の原因になってしまいました。また地下水は雨水が地中に浸透し、地層の合間をぬって地表に長い期間をかけて出てきます。従って流速は非常に遅く、無計画で採水すればすぐに枯渇する危険性があります。

このように水の需要問題は世界的な農業や工業と密接に関連しており、自然の水循環はほぼ一定であるのに対し、逆に水需要は増加の一途となっています。

写真は富士山を使いました。富士山の麓には富士五湖・忍野八海・白糸の滝・三島市など湧水の宝庫があります。これらの地下水は富士山の雪から出発し、長い時間をかけて地表に現れてきます。三島市・富士市などでは製紙業が盛んで一時地盤沈下が進みましたが、現在では水が枯渇しないよう取水を計画的に行っています。このような例から水の象徴としての富士山を用いましたが、優良な湧水も富士山の世界遺産の一部かと思います。

編集後記

◇当会の活動レポートや、市内の環境スポット、環境グループなどを取材してくれるボランティアスタッフを募集しています。◇興味ある方は当会まで企画をお寄せください。(写真は通信の発送作業風景です) (梟)



エコシティ志木通信

第72号 2013年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

エコシティ志木の
イベントカレンダー



2013年 2014年
12月→3月



2月10日(日)「冬の野鳥観察会」のようす 〈写真：毛利将範〉

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円
賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください
〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、申込不要・参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問い合わせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（場所は市内の2か所です）

【時間】9時30分～11時30分（雨天中止）

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&志木市道路公園課

【問合せ】048-471-1338（天田）

＜西原ふれあい第3公園＞

【日程】12月8日（日）・28日（土）/1月11日（土）・25日（土）

2月8日（土）・22日（土）/3月9日（日）・22日（土）

【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ

【内容】西原ふれあい第3公園の清掃・下草刈り・保全等の作業を行います。



＜いろは親水公園＞

【日程】12月22日（日）/1月26日（日）/2月23日（日）/3月23日（日）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋

【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・外来植物の抜き取り等の作業を行います。



■調べてみよう

◆ヨシ原景観の保全に関する調査

【日程】12月1日（日）（調査結果まとめ）

【時間】19時～21時

【集合】いろは遊学館第3研修室

【内容】調査結果のまとめと来年度の対応を検討します。

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【問合せ】090-1990-4807（筑井）



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング＜毎月第三日曜日＞

【日程】12月15日（日）/1月19日（日）/2月16日（日）/3月16日

【時間】いずれも9時～12時（雨天中止）

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町3-2-2）

【内容】※最初に全員で河原のゴミ拾いをします。



- (1) 野鳥：柳瀬川に沿って約4km弱を散策しながら調査します。
 <持物> 双眼鏡、あれば野鳥図鑑
- (2) 川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。
 <持物> 川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑
- 【費用】200円/家族(会員・中学生以下は無料)
 【主催】NPO法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部
 【問合】080-3154-7056(毛利)

◆埼玉県内一斉ガンカモ調査

- 【日時】1月12日(日) (雨天の際は13日(月・祝)に延期)
 【集合】9時志木大橋のたもと(下流の右岸側テニスコート裏)
 【内容】志木大橋から柳瀬川・新河岸川合流点まで散策しながら調査します。新河岸川との合流地点にて解散。
 【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑
 【費用】無料
 【備考】種類が分からなくても、参加できますので、ご心配なく。
 【主催】埼玉県生態系保護協会志木支部
 【協力】NPO法人エコシティ志木
 【問合】090-9025-9725(加藤)



■自然と文化を楽しもう

◆冬の野鳥観察会

- 【日時】2月2日(日) 9時~11時(雨天中止)
 【集合】9時に東武東上線「柳瀬川駅」サミット前の円形広場
 【解散】市役所手前
 【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑
 【費用】200円/家族(会員・中学生以下無料)
 【主催】NPO法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部
 【後援】志木市教育委員会生涯学習課
 【問合】090-9025-9725(加藤)



◆新河岸川ぶらり散歩

- 【日程】3月21日(金・祝日) (雨天中止)
 【時間】9:30~15:00頃
 【内容】浅草付近の隅田川を歩きます(詳細は次号で)
 【持物】お弁当、飲み物、歩きやすい服装
 【費用】300円/大人(会員100円・中学生以下無料)
 【主催】NPO法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部
 【問合】048-471-1338(天田)



会員募集中!

◆8月◆

- 24日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
 25日（日）水辺応援団養成講座第5回
 28日（水）新河岸川流域川づくり連絡会
 30日（金）エコシティ志木通信印刷発行作業
 31日（土）志木稲門会講演会（野火止用水について）

◆9月◆

- 1日（日）いろは親水公園ヨシ・オギ保全地観察
 2日（月）柳瀬川河床掘削工事の現地打ち合わせ
 8日（日）西原ふれあい第三公園定例作業
 8日（日）水辺応援団養成講座第6回
 10日（火）田園水塚ウオーク下見
 10日（火）9月定例運営会議
 17日（火）志木小学校こどもエコクラブ
 19日（木）放課後子ども教室りんくす・十五夜お散歩
 19日（木）広報部会通信編集会議
 21日（土）こもれびのこみち定例作業
 22日（日）志木の自然観察会・秋（柳瀬川）
 22日（日）水辺応援団養成講座第6回
 24日（火）西原ふれあい第三公園臨時作業
 28日（土）西原ふれあい第三公園定例作業

◆10月◆

- 3日（木）宗岡三小柳瀬川自然学習第2回
 5日（土）生き物モニタリング調査中間報告会
 6日（日）いろは親水公園ヨシ・オギ保全地観察
 8日（火）志木小学校屋上ビオトープ調査
 12日（土）高島第六小いきいき寺子屋柳瀬川体験
 13日（日）西原ふれあい第三公園定例作業
 14日（月祝）志木の杜テラス（マンション）で水族館開催
 15日（火）志木小学校こどもエコクラブ
 15日（火）10月定例運営会議
 18日（金）いろは遊学館ふれあい祭り（志木小見学）
 19日（土）いろは遊学館ふれあい祭り
 20日（日）いろは遊学館ふれあい祭り
 21日（月）コミュニティ協議会地域活性化委員会
 22日（水）コミュニティ協議会理事会
 28日（月）西原ふれあい第三公園定例作業
 28日（月）志木小学校こどもエコクラブ
 29日（火）宗岡三小柳瀬川自然学習第3回

◆11月◆

- 3日（日）どんぐりと落ち葉で遊ぼう
 3日（日）いろは親水公園ヨシ・オギ保全地観察
 7日（木）広報部会
 10日（日）西原ふれあい第三公園定例作業
 11日（月）志木小学校柳瀬川自然学習（1班）
 12日（火）11月定例運営会議
 13日（水）志木小学校柳瀬川自然学習（2班）
 14日（木）放課後子ども教室りんくす・イモ掘り
 14日（木）新河岸川流域川づくり連絡会
 16日（土）柳瀬川・野鳥＆川の生き物ウォッチング
 16日（土）黒目川・秋の川まつり
 17日（日）志木市民まつり（コミュニティ協議会に参加）



NPO法人エコシティ志木

冬の斜面林手入れ

これから日増しに寒くなってきますが、斜面林の手入れとしては、重要な手入れがあります。

この時期になると、落葉樹の葉が落ち、大量の落ち葉が斜面林を覆ってしまいます。斜面林の中の遊歩道の落ち葉は、足を滑らす原因にもなりますので片付けておく必要があります。また、春に芽を出して花咲く林床植物の為には、厚く覆っている落ち葉を少し取り除いてやる必要があります。



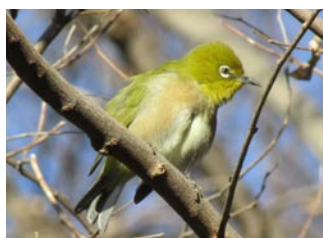
〈いろは親水公園〉

斜面林の中でも比較的日光が当たっていて、暑い夏に大きい草やササが生えてしまったところは、そのままにしておくより更に株が大きくなり、本来生えていた植物がなくなってしまいう事にもなりかねません。特に繁殖力の大きい植物は、手間のかからないうちに刈り取ってきれいにしておいてやる必要があります。

夏の草が枯れたり、葉が落ちたりしているこの時期は、手入れするのにはいい時期だと思います。

落葉樹の葉が落ち、地面に日が当たり、春先にスミレなどの野草が咲くのも、斜面林手入れの楽しみではないでしょうか。

（青木明雄）



〈西原ふれあい第3公園のメジロ〉